

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり	ユニット名	蛸町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4570500233-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①四季を感じる事の出来る日本の特徴を活かし、様々な場所へ外出する事で、昔の思い出を引き出せるようにしている。②家族参加の行事を開催し、昔のように入居者と家族の方々が同じテーブルで食事を摂れる環境を作り、家族の絆が深められるようにしている。③併設している事業所の行事等にも、積極的に参加を実施しグループホーム入居者以外の方々との交流も促進している。④墓参りや一時帰宅等の希望がある場合には、車椅子の方であっても公用車等を使い入居者並びに家族の意向に沿えるようにしている。⑤様々な悩み事で相談に来られた方々に対しては、親身に話を傾聴し、身体並びに精神状況だけでなく経済的状況も勘案したサービス利用の提案も行っている。(他法人のサービスについて提案を含む)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、法人の敷地の高台に立地し果樹園や菜園など、利用者がこれまで培った力を発揮できる環境にある。また、併設する介護施設や温泉施設、グラウンドがあり地域との交流も図っている。代表者や管理者と職員は意見を言いやすく、設備や業務の改善など働きやすい職場づくりに取り組んでいる。職員不足や介護負担、利用者の負担軽減を考えインターネットを活用したデータ管理やAIの導入も視野に介護現場の改革に力を入れている。職員は様々な研修や地域密着型サービスの連絡協議会などに参加し、知識・技術の向上に努め利用者の喜び・安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、介護理念を職員が見える所に掲示している。毎日朝礼で復唱し、言葉遣いや態度で実践している。理念に基づいたサービスを実践できるように振り返りや進捗状況の確認を行っている。	喜び・あんしん・共生という法人の理念を元に、職員全員で考えた理念を共有し実践に取り組んでいる。職員会議で実施状況を話し合い確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練時の協力をもらっている。地域の方のグラウンドゴルフの見学を行っている。	敷地内のクラフトゴルフ場や温泉施設を利用する地域の方と触れ合う機会があり、法人の夏祭りや敬老会などに参加を呼び掛けるなど交流を図っている。代表者は街づくり協会に加入し子ども食堂の計画など地域の一員として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生やボランティアの受け入れを行っている。実践の中で認知症の理解や関わり方などを説明している。又、職員、利用者との交流を行っているが、プライバシーの保護、不安や混乱を招かないように事前に説明し配慮を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所での取り組みを報告し、意見やアドバイスを頂き、ケアの工夫、改善に取り組んでいる。	運営推進会議では、サービスの取組や活動報告を行い現状の課題を話し合っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。しかし、会議のメンバーは固定されているため意見の偏りがある。	運営推進会議では地域密着型の意義を踏まえ、行政や家族等に留まらず社会資源や民生委員など地域住民もメンバーに加えた会議を行い多種多様の意見をサービスの向上に生かすことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて活動内容を報告している。行政担当者へ困った時など相談し、訪問の際情報交換も行っている。	介護相談員や認定調査の訪問時に実情やサービスの取組を伝え情報交換をしている。市町村担当の窓口に出向いたり運営推進会議を通して運営や制度に関することなどを相談し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア向上委員会を中心に「身体拘束ゼロの手引き」を基に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修会を開催し全職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。更に、法人のケア向上委員会に参加し理解を深めている。年に1回ストレスチェックを行いメンタルケアにも努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的な虐待の防止の為、資料等を利用し虐待防止の意識を持ち、定例会議等で自己啓発に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関して、他ユニットの利用者が活用している。職員も学び、理解できるように努めている。さらに知識を深め、理解し活用できるようにしていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不明な点を確認し、重要事項説明書にて説明を行い、理解、納得して頂き署名、捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、要望や意見を聞けるように心掛けている。玄関の外にスマイルボックスを設置している。年1回家族アンケートを実施し、意見を反映し返答を返している。又、利用者の要望や意見を聞いて、行事などの活動を行っている。	家族会やアンケート調査の意見を掲示し外部者へ情報公開している。日頃の会話や面会時に意見を聞き運営に反映させている。遠方の家族へは電話や便りを郵送し意見や要望を聞けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時、定例会議にて職員の意見を聞き、話し合いを行っている。昼食時等、普段の会話の中からも意見や提案をすいあげ、反映できるように心掛けている。	職員会議や日頃の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。更衣室・トイレ・脱衣室の改修や勤務体制の変更など意見を反映し改善している。また、職員を対象とした児童保育所の設置を予定している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司と連携を図り、働きやすい職場作りに努めている。夜勤手当の見直しもあり、給与水準も変わった。職員のストレスチェックも実施して精神的不調の未然防止を図っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、自己啓発の参加機会が設けられている。必要資格の研修にも参加している。定例会議で報告会や勉強会を行い、研修資料を閲覧できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック研修会や地域密着型サービス事業所連絡会へ参加し、他事業所との意見交換で良い所は取り入れサービスの向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査をし、在宅訪問を行い本人、家族と面談し本人の様子を見ながら不安や要望、望む暮らしを聞き取り、安心して入所できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望等を伺い、見学に来て意見を確認し安心して暮らせるように、いつでも連絡できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーとの連携を図り、本人の為に必要としている支援は何かを考え、他のサービスへ繋げられるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやお盆拭きやエプロン干し等を職員と一緒にし、一人ひとりに合った生活が出来るように心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と一緒に楽しめる食事会や夏祭り、敬老会などの行事計画を行い、本人と家族が楽しく過ごし絆を深める事が出来る様努めている。毎月、家族へ生活の様子をお手紙で伝え、一緒に本人を支える関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時はゆっくり会話できる様、居室で面会をして頂いている。又、家族へ外出、外泊の協力を依頼し家族と過ごす時間が持てるように支援している。	理美容室や墓参りなど馴染みの人や場所との関係が継続できるよう家族の協力を得ながら支援に努めている。遠方の家族とは手紙や電話、インターネットを活用し関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や生活習慣を把握し、利用者間で会話が弾むような話題を提供したり、レクリエーションや行事、普段の食事などで会話出来る様に座席を配置し利用者間で良好な関係を保てる様に支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所した施設へ面会に行き、本人、ご家族とも情報交換を行い、交流、相談、支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に希望や意向を伺い把握に努めている。またカンファレンスを行い、職員間で利用者本位のサービスが提供できているか見直し、検討している。		契約時はできるだけ自宅を訪問し思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に確認し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より入所前に情報を聞き、生活歴などは日々の会話の中で把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過記録やチェック表、月評価を活用し、一人ひとりの状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的に担当者会議を行い、現状のニーズに合わせた介護計画を作成している。		利用者担当を中心に管理者、リーダー、ケアマネジャー、看護師でアセスメントを実施し本人・家族の意向や関係者からの意見を反映し介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い現状に即した介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態は毎日記録しており、気づきや工夫等は職員間で情報共有し申し送りノートへ記入している。ケアの統一を図ると共に見直しを行い活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて病院受診や外出、外泊等、柔軟に対応できる様に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節感を感じられ、地域資源を活用できる行事を行い、生活できる様支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療機関をかかりつけ医とし、定期受診、異常時の対応を行っている。又、専門医への受診が必要な場合は、紹介状を依頼し、受診している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を継続している。受診の際は看護師が同行し情報提供を行い適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の引継ぎやバイタルチェックを毎日行っている。異常時には連携を取り、病院受診し早期対応に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に職員が面会を行っている。病院関係者との情報交換を行い関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人、ご家族の意向を入所時、日頃からの聞き取りも行い、重度化、終末期の支援について医療と連携を図りながら対応できる体制を整えている。	契約時に重度化や終末期のあり方について、本人・家族の希望やホームのできる事を説明し方針を共有している。看取りについてはその都度、確認を取り医療との連携を図れるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な行動がとれるように外部研修会、職場内勉強会で緊急時対応の勉強会や練習を行っている。事業所看護師より日頃から分からない事などは指導を仰いでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例会議や避難訓練で避難場所、方法を確認している。避難訓練後は総評をもとに振り返りを行い、全職員が身につける事ができるように取り組んでいる。地域防災協力隊との懇親会、避難訓練を行い地域との協力体制も築いている。	法人全体で年に1回、グループホームで年2回火災・地震時の避難訓練を実施している。地域の消防団も参加し協力体制を築いている。備蓄品も管理し、地域の避難場所にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から丁寧な言葉遣いを心掛け、朝礼時には接客5大用語を復唱し、正しい挨拶と返事の仕方を心掛けるように周知している。人生の先輩である事を心掛け、相手の立場に立って対応を行っている。	接遇について施設内外の研修に参加し、尊重した言葉遣いや対応をしている。トイレや失禁は羞恥心に配慮しさりげない声掛けや人目にさらされないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の立場に立ち、その人らしく生活できるように想いを汲みとり支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペースで過ごせる様に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、訪問美容室を依頼している。一人ひとりの要望に合わせて、染め、パーマ、カットを行っている。馴染みの美容室がある方は家族の協力をもらい対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、味付け、味見を職員と一緒に、好みの味付けを把握している。食事の後も下膳や台拭き、お盆拭きを職員と一緒にやっている。	主菜とデザートは併設する介護施設の厨房で調理されるが、ご飯と副菜、汁物はホームで調理している。菜園の野菜を一緒に収穫し調理法を考えたり作ることで食事が楽しみなものになるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、栄養バランスや一人ひとりに合った食事形態で提供している。又、月1回の体重測定、水分摂取量の把握を行い、体調管理、異常の早期発見に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一人ひとりに合ったブラシや口腔ティッシュ、洗口液を使用し、自分で出来る方は声掛け、見守りをし、その後に歯磨きの手伝いを支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりに合わせ、羞恥心に配慮した声掛け、誘導行いトイレで排泄できるように支援している。又、尿測を行い本人に合ったパット選定、随時見直しも行っている。	本人の排せつパターンに合わせて誘導し失禁の量を減らすことで自立に向けた支援に努めている。夜間帯は尿量に適したパットの選択やポータブルトイレの使用など個々に合った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄パターンに合わせて自然排便を促せるように食事、水分、運動を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日の体調や希望を確認し入浴を行っている。ゆっくりと浸かりたい方は順番を利用者と一緒に決め、ゆっくりと入浴できるように支援している。	週3回の入浴を実施しているが、本人の希望でいつでも入浴ができるよう支援している。入浴を拒む時は時間をずらしてタイミングを計って促している。ゆず湯やラジオをつけるなど楽しめるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで午睡の時間を作っている。昼夜逆転にならないように日中の活動に配慮している。夜間眠れない時には話しをしたり、飲み物を提供し気持ち良く睡眠できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書のファイルを作成し、目的、副作用を全職員が把握し、服薬支援を行っている。異常時は看護師、主治医へ報告し指示を仰いでいる。薬の変更等があった際は、朝礼時に引き継ぎ、共通理解に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持って生活できるように心掛け、無理強いはず体調に合わせて出来る事を支援し、洗濯物干し、たたみ方、中庭やプランターの草取り等を一緒に行い、終了後は労いの言葉を伝えている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所を利用者へ聞き、外出支援を行っている。電車の旅では駅員に協力をもらおう等、地域資源の活用も出来た。日常的な外出も行い、車椅子の方も送迎し、家族へも外出の協力を頂いている。	日用品や化粧品等の買い物や毎日の散歩など、一人ひとりの希望に沿って日常的に外出を支援している。花見や行楽地へのピクニックなど法人の車両を利用し出かけている。個別の希望は家族の協力を得て出かけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	蛍町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を頂き、小口現金としてお金を預かり事業所で管理している。外出時や買い物時の支払いは自分で払えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や贈り物が届いた時は、本人へ手渡し、家族へ本人自らが電話している。家族、知人へ感謝の気持ちを込め絵はがきを書き、大切な人との関係が継続できるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールで懐かしい歌を流したり、玄関、ホールに季節の花を飾ったり、季節を感じてもらい居心地よく過ごせるように工夫している。室温調整や天気に合わせて照明の調節、カーテン、障子の開け閉めを行っている。月1回、安全衛生委員による職場巡視を行い点検を行っている。	居間や居室・廊下は障子越しの柔らかい光に包まれ、要所に座れるスペースがあり居心地よく過ごせる工夫がされている。場所がわからなくなり混乱しないようトイレや浴室などの表示が大きく張り付けてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に角にある腰掛け、畳間、ロビーなど共用空間を設け、選択できるように工夫している。利用者同士がいつでもくつろいだり、話ができる場所となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるように思い出の写真やご家族との写真を居室へ飾っている。家族へ協力を依頼し、自宅で使用していた馴染みの物を取り入れるように工夫をしている。	居室は整理整頓され寝具はきちんと整えられている。仏壇や家族の写真など思い思いのものを置きその人らしく過ごせる居室づくりを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、トイレ、脱衣場の改修工事を行い、車椅子やリクライニングでも安全に使用できるようになった。			